

私たちは、自閉症という障害をもつ人たちが、彼らなりに社会の一員として自主自立をめざし、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いていくことを目的としています。

檜の里 A J U

令和6年6月25日 発行 / 第112号

発行人 A J U
東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸之内3-6-43みこころセンター4F
編集 社会福祉法人 檜の里
〒510-1326 三重県三重郡菟野町杉谷 1573
電話 (059) 394 - 1595
編集責任者 山田 勉
購読料 1部 100円
(会員の購読料は会費に含まれています)
URL <http://asakegakuen.com>



学園生活戻った日常



B棟



青葉台ホーム



C棟



さんらいずホーム



通所



D棟

晴れやかな笑顔で
全員集合

令和六年度法人事業計画

社会福祉法人檜の里 理事長 山田 勉

1はじめに

二〇一九年十二月から始まったコロナ禍の流行は何度かの増減の波を繰り返して、何時終息するかは見通しが立たない状況にあります。徹底した隔離政策は経済に悪影響を及ぼすため、コロナとの共生に方針を変更し、今日に至っております。

私共社会福祉法人檜の里あさけ学園は、入所者の感染を防ぐため、帰宅は一切禁止し、施設での面会も短時間にすませ、感染防止の措置をしております。残念ながら感染者の発生をみております。

また、二〇二二年二月末からのロシアのウクライナ侵攻は収束の見込みは全く立たず、長期化しており、さらにパレスチナ・ガザ地区での紛争も続いており、単に軍事や政治の問題にとどまらず、ロシアへの経済制裁などのため、最近の大幅な物価上昇や急激な円安など、世界経済への影響が出ており、日本経済にも大きな影響が出ております。

また、本年一月一日には能登半島地震も発生し、その復興事業に大規模な予算措置も予想されます。このような情勢の中で日本の国家財政はさらに厳しくなり、社会福祉関係予算も抑制せざるを得ない状況になると予想されます。

しかし、自閉症という障がいを持つ人たちの生き難さや、支援の困難さ

非常勤医師を三重大学病院より派遣いただいております。

3職員の充足、育成、研修と処遇の充実

自閉症者支援の専門性は、日常生活のうちで、福祉の制度や、支援サービスの充実を国に働きかけていく必要があることは、変わりはないと思われ

ます。

これまでの檜の里の四十三年にわたる事業の歴史や、支援の実践と努力の成果を受け継ぎ、私達は自ら主張することが困難な利用者に代わって、地域でその人らしく生きる共生の実現を目指していききたいと思

います。

2「自閉症総合援助センターあさけ学園」の運営と社会福祉法人としての事業の推進

檜の里が親たちによって設立されたという経緯があり、法人の役員も保護者が多くの責任を負いながら運営されてきました。

今後も、自閉症という困難な障がいを持つ人達を支える法人設立本来の目的を明確に維持しつつ、改めて社会福祉事業の役割と責任を果たしていきたいと思っております。

その親達が高齢化のため活動がしにくくなっており、その対策も考えていきたいと思っております。

また、併設している「あさけ診療所」は常勤医師の高齢化により、診察体制を前年四月より外来診療を打ち切り、法人施設の利用者を診療する体制に変更しております。

その体制を維持するため

1自閉症総合援助センターとしての取り組み

あさけ学園(生活介護・施設入所支援 定員四十名、短期入所 四名)、ワークセンターひのき(生活介護 定員四十名)、あさけホーム(共同生活援助 二十二名)、三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ、あさけ診療所(児童精神科・心療内科)を一体的に運用して、自閉症のある人々への総合的な支援を継続していく。

(1)施設入所支援においてユニット化した十数名の小集団の居住環境を最大限に活用し、

は、専門的な相談機関として地域の関係機関の後方支援や研修事業を行なうとともに、発達障害者地域支援マネージャーの有効な運用を進める。

さらに、短期入所等の施設機能を活用することが有効な人々について、自閉症総合援助センターあさけ学園の関係部署と連携して取り組んでいく(ケアシステム会議)。

(5)あさけ診療所では、利用者の精神科医療を担当するとともに、健康や安全面についての管理・指導を行なう。

(6)利用者の高齢化やその予防、健康の増進に向けて、日中活動部門(職業支援課)と生活の場(施設入所支援、グループホーム、短期入所、家庭、その他)、地域活動・健康増進委員会、医務室、調理部門(栄養士)、外部の専門家等と連携した取り組みを進める。

(7)強度行動障害を示す人たちの支援について、療育的、構造的な環境の必要な利用者への集中的な取り組みや緊急時の短期入所の受け入れ、その後のフォローアップなどの機能を行うための整備を行なう。

(8)コロナ後の新たな家族や地域住民、外部機関等との交流の方法を再点検する。

2特定相談支援事業所あさけの取り組み

(1)継続して、法人内の福祉サービス利用者に係る計画相談支援(サービス等利用計画)の作成・モニタリング)を客観的に行なう。

(2)法人以外の在宅障害者の計画相談支援について取り組む。

(3)地域生活支援拠点事業の相談支援機能を担う検討及び取り組みを行なう。

4地域生活者の現実的なTLCP(Total Life Care Program)への取り組み

2024年度事業計画

自閉症総合援助センター あさけ学園 施設長 近藤裕彦



人、関係諸機関と常に連絡を取り合い、個々の利用者への総合的なサービス提供に向けた協力体制を整える。

(1)利用者の健康面の配慮や高齢化への備え、地域生活の保障、日中活動の充実、社会的自立を促す取り組みなどについて、さまざまな暮らしのニーズの検討・協議を重ね、地域で生活する利用者の住まいの構想を組み立てる。

(2)さんらいずホームA隣接地の今後の整備、法人の業務継続計画(BCP)と連携した運営・支援体制の検討を継続する。

(3)あさけホームは、みえ福祉サービス第三者評価を踏まえて、さらに良好なサービスの提供に向けた取り組みを進めていく。

(4)利用者の社会的自立や地域での安心した暮らしを保障するため、近隣の住民や公共機関と協力・連携し、必要に応じて地域へ出向く支援を行なう。

(5)協同して家庭生活機能の維持・向上をはかるとともに、ライフイベントや暮らしを支えていく支援、高齢化する利用者の将来を見据えた日中活動や生活の場の整備、地域資源の開発などを進める。

6施設整備に向けた取り組み、検討、その他

(1)あさけ学園作業棟修繕工事に向けた取り組み

(2)感染症、防災、防犯に関する設備・物品等の整備及び充実

(3)建物等整備計画の原案作成に向けた検討。

5職員研修、育成について

など、これまでの取り組みをチームで振り返る作業を通じて、その目的や意味を見直すとともに、言語化し、共有していくことを目標とする。

(1)支援員及び世話人は、主任・管理者等と相談しながら各自の研修計画書を作成し、目標達成へ向けた自己の研鑽に努める。

(2)主任・リーダーは、職員及び各部署の年間目標の達成に向けて、現状の分析、年間研修計画の策定、外部講師による研修の企画・実施を行なう。

(3)社会資源の活用も含め、健康増進、創作活動等のプログラムの開発及びそれらを計画・実施できる支援者の養成を進める。

(4)定期的にケースカンファレンスを実施し、進行中の取り組みが前進しているという実感をチームで共有していく。

(5)外部講師によるスパービジョンで明確になった課題へ丁寧に取り組む、その成果を蓄積し、深めていく。

(6)権利擁護に関する職員研修の開催、及び外部研修会へ積極的に参加し、利用者の人権を守る意識を高めていく。

全国自閉症支援者協会 だより



○全国大会（神奈川県）
令和五年十二月十一日、横浜ラポールにおいて、半日の日程に短縮して、四年ぶりに対面で開催しました。さらに後日、神奈川県プロック三施設の実践報告もネット上で配信されました。

今回は、七年前の津久井やまゆり園の事件も考慮に入れ、「共に生きる社会を目指して」の大会テーマのもと、野田聖子衆議院議員のビデオメッセージ、厚生労働省と子ども家庭庁から

○東海ブロック職員研修
令和六年二月二十日、東海ブロック加盟十一施設の支援者十八名が参加し、昨年度に続きオンラインで開催しました。午前二時間ほどの時間帯だったこともあり、

の行政説明、神奈川県保健福祉大学名誉教授臼井正樹氏による「いわゆる『障害者の人権』を守るために、私たちに何が求められているのか」のタイトルで基調講演をいただきました。

後半は、加盟施設を対象とした虐待防止の取り組みに関するアンケート調査報告を受けて、元毎日新聞社論説委員の野澤和弘氏を加えた鼎談へと繋がりました。

最後に、次回の岩手大会の主幹施設となる虹の家の八重樫施設長から挨拶をいただき、閉会しました。

○令和六年度総会
令和六年六月十四日、TKP東京駅カンファレンスセンターにて、昨年に引き続き対面で開催の運びとなりました。議事に先立ち、山本博司参議院議員のビデオメッセージ、厚生労働省の山根和史発達障害施策調整官の講演をいただく予定です。

総会は、例年の事業計画等の討議に加えて、令和六、七年度の役員の改選、協会理念とスローガンの発表、権利擁護に関する取り組みのヒアリング、他となっております。

後日、講師のすださんより、グループワークでの討論内容を受けた「つづく」の作品が贈られてきましたので、参加者の皆様へ配信させていただきました。めでたしめでたしでした。

議事後、情報交換会の場が設けられ、ブロックや部会、委員会の活動報告等、盛りだくさんで活発な意見交換となりました。

(施設長 近藤裕彦)

三重県自閉症協会の作品展

世界自閉症啓発デー特別企画第十五回三重県自閉症協会作品展が令和六年四月四日(木)〜七日(日)にかけて、津リージョンプラザで今年も開催されました。

あさけ学園からは、創作活動メンバーが制作した作品の展示と今年初の遅めの桜の開花により、満開の桜の中、利用者さんと共に鑑賞(外出)をしてきました。

今回出展した作品は、「子・丑・寅・卯・辰までの書道の壁飾り」と、「お正月感のあるダルマの置き飾り」です。

干支の書道は、作品展に合わせて書いたものではなく、毎年、その年の干支を書いていたもので、今年の干支「龍」をメインにそ



れらを並べたらダイナミックな壁飾りが出来上がりました。

ダルマの置き飾りは、お

正月恒例物で、どれもみな個性豊かな表情をした可愛らしい作品になりました。

作品展会場では、日頃創作活動グループで制作している利用者さんと一緒に、今回の自信作を誇らしげに見ていると、「この方たちが作ったのですか?! すごくいいですね」とありがたいお言葉を掛けて頂きました。

こういった繋がりが制作している利用者さんや私たち職員の間にも喜びの輪が広がっています。

(支援員 藤田理奈)

り、パートや勤務外の職員をはじめ、多くの職種の方が集まっていたことができて良かったです。

講師は、障がい者支援センター高浜安立の相談支援専門員すだてつさんに依頼し、講義「改めて自閉スペクトラム症を知ろう」人間的な「仲間としてのつながり」を感じられるようになり、グループワークを経て、すださん作の四コマ漫画二篇を読み、登場人物のたいちやんが近所のウメさんと仲良くなれる方法を話し合いました。



法人会計報告についてのお知らせ

令和六年六月二十二日に開催の定時評議員会において二〇二三(令和五)年度事業報告並びに決算報告が承認されましたので、ここに報告いたします。

報告書は、あさけ学園事業

社会福祉法人檜の里 後援会総会

令和六年六月一日(土)、あさけ学園会議室において開催しました。

会員の高齢化に伴い出席人数が年々減少する中、委任状を含め、過半数の賛同を得て無事成立、承認されましたので御報告いたします。

役員一同

あさけホームの近況

さんらいずホーム、サテライトの利用者のほとんどが外部の事業所にて就労をしています。そのため、事業所において色んな人たちと接触することが多く、帰宅後は手洗い、うがい、入浴と感染予防を入念に行っています。

休日には、音楽を聴いたり、録りだめしてあったテレビ番組を見たり、模型パーツ付きの雑誌を購入し車の模型の製作をしたりと、それぞれの過ごし方を楽しんでいます。

青葉台ホームの利用者は、受注作業、パン工房、リサイクルセンター、外部の事業所と様々な日中活動をしています。

今年になって、一部の利用者は、スレッチ・体幹運動、畑作業やドライブなど、さらなる活動の充実を試み始めました。

休日はゆっくりテレビや雑誌をみたり、散歩や運動、人によっては絵葉書や写真撮影などしています。

感染対策もだいたいが身につきました。コロナ禍をよく頑張ってきたと思っています。



(管理者 清水孝幸
支援員 三宅光子)

メンバー紹介



世話人 門脇由紀子

二月からさんらいずホームとサテライト担当となりました。

少しでも利用者さんに寄り添えるよう頑張ります。よろしくお祈りいたします。



世話人 山下古都絵

九月に世話人として入社しました。学びの多い職場だと思っています。よろしくお祈りいたします。



支援員 伊川智也

昨年九月に入社しました。『楽しむ』をモットーに業務に取り組んでいきたいです。



支援員 柴田令子

九月からB棟支援員として仲間入りさせていただきました。お祈りいたします。

学園だより

こんにちは！私たち看護師三名はあさけ学園に入職し六年が経とうとしています。三人とも児童精神科は初めてで、とまどうことが多かったように思います。それでは看護師の一日の流れを紹介したいと思います。朝、各棟を巡回することからはじまります。リビングに座っている利用者さんの表情を見て夜間に異常がなかったか、身体の様子が変わったことはなかったか、睡眠状態はよくなったか、排便状態はどうかを支援員より確認、相談しながら症状に応じた経過観察を依頼します。

また軟膏の塗布や処置をしたりしてひとまず全体引

よつては専門医を受診します。コロナ禍以降、受診も苦労することもあります。状態がよくなった時にはその苦労も報われる思いです。他にも利用者さんに変

わったことがあれば対応をします。夕方にも作業後の

医務室の紹介

利用者の様子巡回するというのが大まかな一日の流れです。また健康管理として年二回の採血や検尿、心電図検査、年に一度の胸部レントゲンを外部業者に依頼し各検査の数値や結果が届き、何らかの異常の疑いがある

場合も専門医を受診します。

またまだ未熟な三名ですが三人寄れば文殊の知恵で日々奮闘しています。今後とも頑張りますのでよろしくお願いたします。(看護師 須川秀代 内藤貴子 金津妙子)

いんばは

先生は、今年の四月からあさけ診療所に週一日診察に来ていただいています。今回、利用者の診察が一巡したときにお話を伺いました。



あさけ診療所児童精神科医 鈴木 大 先生

先生は、今年四月からあさけ診療所に週一日診察に来ていただいています。今回、利用者の診察が一巡したときにお話を伺いました。先生は岐阜県出身で、現在、三重大学医学部附属病院に勤務しています。一九九九年に精神科入局、その後一年間は県立小児心療センターあすなろ学園、二〇〇二年より現職に就かれています。

個性や得意な面が発揮できるというところが興味深いとのこと。

団生活の中で当番をしたり、外へ仕事に出て頑張っている。適切な支援があれば、各々の

また、年齢は高くても自閉症の特性が顕著で、あすなろで診た典型的な自閉症の方が大人になった感じを受けたそうです。

最後に、この機関紙の読者に向けて一言、医療とは支援の一部ではないので、気をつけないとどんどん狭まってしまう。医療でないといけないことを探し出すのが大事で、支援員の皆さんとお互いに補いながら支援していきたいと語ってくださいました。(施設長 近藤裕彦)

さんらいずホームの花見

今年もふれあい広場の桜がきれいに咲き、春の本格的な訪れを感じさせてくれました。

さんらいずホームAのすぐ前がふれあい広場ということもあり毎年ホームの利用者さんは、この春の景色を見ることができました。

ただ、この三年間ほどは新型コロナウイルスの影響でゆっくりと楽しむことができませんでした。昨年第五類へ移行となり、少しずつ以前の日常を取り戻しつつあります。

そんな中久しぶりに、サテライトでの生活をしている利用者にも声をかけさんらいずホームに招待し、さんらいずホームの利用者と一緒に満開の桜を堪能しました。そして、世話人さんが作ってくれたおはぎをこっそりた。

サテライトの利用者は、久しぶりにさんらいずの利用者に会うことができ嬉しかったようです。第五類へ移行となったからと言って油断はできませんが、今後もういった機会を作っていききたいと思



(管理者 清水孝幸)

令和六年度 後援会費納入のお願い

社会福祉法人檜の里後援会

会長 飯田 俊司

私たちは自閉症という障害を持つ人達が、彼らなりに社会の一員として自主自立を目指し、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いて行くことを目的としています。

この趣旨に賛同して会員となってくださいました皆様方には、今年度も引き続き格別のご支援ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

同封の郵便振込用紙に必要な事項をご記入の上ご送金頂きたく存じます。

年会費

正会員 一〇二万円以上

賛助会員 一〇二千円

(何口でも結構です)

ご連絡先は「あさけ学園」

TEL 059-394-1595です。

なお、会員の皆様には、法人機関紙「檜の里」(年二回発行)を毎月お送りします。

あさけ学園のお客様

令和五年十月一日から
令和六年四月三十日まで
(敬称略)

- ▽加藤直子、出口裕香 (菰野町子ども家庭課)
- ▽小川裕太、大森祥貴、乾 秋穂、村田浩之 (奈良香芝以和貴会)
- ▽青木 徹、鈴木 真、野村裕子、野川昌彦、小西隆之 (三重県いなば園)

ご寄付ありがとうございました

【運営資金】

▽あ・るみね

▽鈴木寿一 (パッチワーク保護者)

【物品】

▽飯田美波 (後援会会長夫人) 〓 手編み作品

編集後記

今回の紙面で、あさけ学園利用者の集合写真を掲載いたしました。

「人に歴史あり」と申しますが、利用者の懸命に生きてきた四十数年がそこにあります。

この数年コロナ禍で日々の営みが制限を受けました。その中でも彼らは文句も言わず粛々と生活してきました。人生百年といわれる現在、彼らの人生を見守り続けるには何が必要で、何を大切にしていけるのか問われているように思えてなりません。

今年度の編集委員は、理事長山田勉、施設長近藤裕彦、支援員松井ひとみ、保護者市川潮、渡邊昭二、伊藤貴宮子、米村ユカリです。

学園の「今」をお伝えできる紙面づくりに努めてまいります。

(米村ユカリ)